

# としよかん だより

2023.5 No.183



長崎市立図書館

〒850-0032 長崎県長崎市興善町1-1

TEL 095-829-4946 FAX 095-829-4948

ホームページ <https://lib.city.nagasaki.nagasaki.jp/>



ホームページスマホ版

## Topic

### ■ホームページから貸出延長手続きができます！

図書館ホームページの「Myライブラリ」から、貸出延長手続きができるようになりました。

- ・貸出期間内で次に予約が入っていない資料に限り、1回まで延長できます。
- ・延長期間は、手続きした日から14日間です。

詳しい手順はホームページをご確認ください。

## Information

### 図書展示

- 1階特集展示 健やかに生きる G7長崎保健大臣会合開催
- 2階特集展示 サミットってなに？ G7広島サミット開催
- YA特集展示 応援★スクールライフ
- YA投稿展示 あったらいいな！こんな学校
- 児童特集展示 外であそぼう！
- 児童ミニ展示 わたしのかぞく



### イベント

#### 長崎県よろず支援拠点×長崎市立図書館 「女性のための無料起業相談会」

中小企業庁認定の経営相談窓口「長崎県よろず支援拠点」が長崎市立図書館に出張！  
「将来起業してみたい」「起業のことを聞いてみたい」「開業の手続きを知りたい」等のご相談に、女性の起業支援に長年携わってきた専門家が対応します。

2023年

5/26(金)・6/23(金)・9/22(金)

10/27(金)・11/24(金)・12/22(金)

2024年

1/26(金)・2/22(木)・3/22(金)

①～④の枠からお選びください

①10:30～11:30

②12:45～13:45

③14:15～15:15

④15:45～16:45

※先着順

相談員：山口 由里子氏

(長崎県よろず支援拠点コーディネーター)

会場：長崎市立図書館

※当日は図書館2階カウンターにお越しください。

※事前の申込が必要です。

開催日の前日までにお申し込みください。

主催：長崎県よろず支援拠点、長崎市立図書館

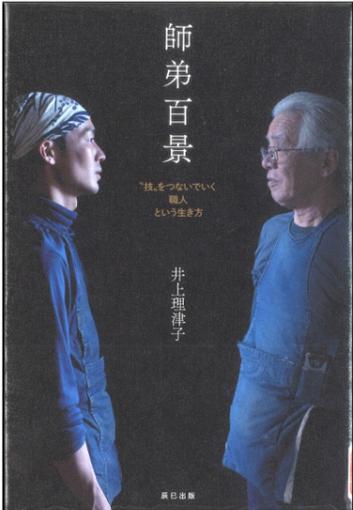
後援：長崎市男女共同参画推進センター（アマランス）

問い合わせ：長崎県よろず支援拠点 TEL:095-828-1462

開館状況やイベントの詳細・開催状況は、図書館ホームページ・SNS・館内ポスターをご確認ください。

# BOOKS：たどってきた道

伝統の道、切り拓く道、何かを成し遂げる道。道はさまざま。

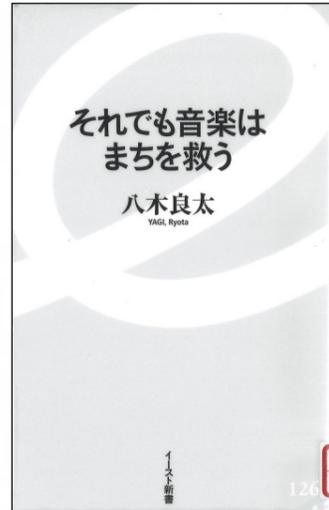


## 師弟百景

“技”をつないでいく  
職人という生き方

井上 理津子/著  
辰巳出版  
2023年刊  
ラベル:502.1イ(2階フロア)

庭師、染織家、宮大工……。伝統の影には技をつなぐ職人たちがいる。一子相伝ではない師弟関係。その世界に足を踏み入れたきっかけは何なのか。師は何を伝え、弟子は何を受け継ごうとするのか。伝統を守る職人たちの思いと、たゆみない日々の営みに心が震える1冊。



## それでも音楽はまちを救う

八木 良太/著  
イースト・プレス  
2020年刊  
ラベル:760.6ヤ(2階フロア)

日本各地で、音楽イベントを通して地域を活性化させようとする取り組みが行われている。加賀温泉郷や知多半島など多数の事例から、地域を再生するためのヒントを探る。



## 世界時空の歴史大図鑑

マイオレッリ/文 マネア/絵 青柳 正規/監修 山崎 瑞花/訳  
西村書店  
2022年刊  
ラベル:204マ(2階大型)

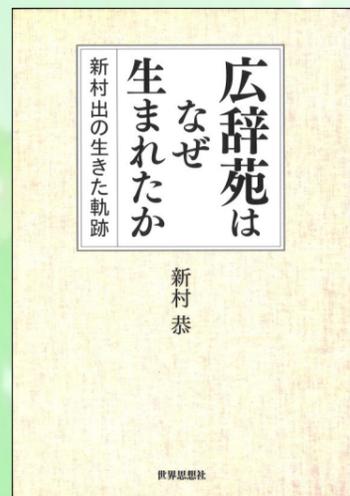
私たち人類が歩んできた歴史を、ひとつの川の流れとしてとらえると？宇宙の始まりから、人類が誕生して現代にいたるまでをイラストを添えて紹介する。



## ロケットガールの誕生 コンピューターになった女性たち

ナタリア・ホルト/著  
秋山 文野/訳  
地人書館  
2018年刊  
ラベル:538.9ホ(2階フロア)

アメリカのロケット開発や宇宙探査の黎明期を、手作業の計算と高度な数学の能力で支えたロケットガールたちの貴重な記録。男性優位社会で、家庭と仕事の両立などの悩みに翻弄されながらも自分たちの道を切り拓いた彼女たちの活躍が描かれる。



## 広辞苑はなぜ生まれたか 新村出の生きた軌跡

新村 恭/著  
世界思想社  
2017年刊  
ラベル:289.1シ(2階フロア)

「広辞苑」には自然に関する言葉が多い。それはなぜか。編者である新村出の生きた軌跡を辿れば、おのずと答えがわかる。日記や書簡など貴重な資料を参考に、彼の生涯と「広辞苑」生成の物語を孫が綴る。